

わたしのまちづくり



▲活動の様子

情：スタッフになるとステージを観る側から創る側になり、今までは違った見方ができそうです。ね。文化の家にとってボランティアとしてのスタッフの役割は大きいように思います。活動で

ホールでの接遇を行うのが当日運営部です。チケットのもぎり、ホール扉の開閉、上演中の場内見守り等を担当します。研修部は会員の親睦を深める市外研修や、スタッフ対象の接遇研修などを行います。新たに入ったスタッフにも共通認識を持って活動してもらうため、接遇のマニュアル本も作りました。そのほか「フレンズ機関紙」を年4回発行する機関紙部や、月1回文化の家で参加者と一緒に懐かしの名曲を歌う「うたごえフレンズ」部があります。住民と行政が協働で文化施設を運営するというフレンズスタッフの活動は珍しいらしく、ホール運営のモデルとして全国のホール運営団体から視察を受けたこともあります。情：スタッフになるとステージを観る側から



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんはいか具体的なイメージがありますか？ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。

長久手市文化の家フレンズ

今回は、多くの人に文化の家への親しみを深めてもらおうと、開館当初からさまざまな支援活動に取り組む、長久手市文化の家フレンズの皆さんにお話を伺いました。

情：最後に、フレンズスタッフの皆さんにとって「まちづくり」とは何ですか。



▲自主公演のチラシ

フ：観に来てくれたお客さんに喜んでいただけたときはもちろんですが、出演者からの声も励みになりますね。活躍の場が少ないアーティストを発掘し、応援する機会を持つことにやりがいを感じます。「こんな立派な舞台に立てた」気持ちよく演奏できた」と感激していただけると、私たちもうれしい気持ちになりますね。

★フレンズクリスマスコンサート「暮れの音」★
 問 生涯学習課(文化の家) ☎61-3411
 和楽器トリオによる演奏です。津軽三味線・尺八・和太鼓による迫力のコンサートをお楽しみください。
 時 12月13日(水) 14:00~ 場 文化の家 森のホール
 ￥ 前売り、当日ともフレンズ会員(本人のみ) 1,200円、一般1,500円
 申 文化の家窓口で発売中

「Weeklyながくて」でも長久手市文化の家フレンズの活動の様子を取材しています。.....▶

情報課職員(以下「情」)：はじめに、長久手市文化の家フレンズについて教えてください。
 フレンズスタッフ(以下「フ」)：私たち「長久手市文化の家フレンズ」は、1998年に文化の家の開館に向けて、市民活動の先駆けである「文化サロン企画懇話会」が組織されたのちに誕生しました。フレンズの会員になると、チケットの先行販売や割引等の特典を受けられ、希望者はスタッフに登録することができます。スタッフは文化の家の親しみと芸術への関心をもってもらうための活動を5つの部に分かれて運営しています。はじめはボランティアスタッフとして10人ほどでしたが、25周年を迎えた現在は30人以上の人が参加しており、文化の家とともに歩んできました。
 情：本日お集まりいただいたのは事業部の皆さんですが、フレンズ企画の自主公演ではチラシからチケットまで全て手作業で作っているのですか。5つの部について詳しく教えてください。
 フ：私たち事業部は、自主公演の企画運営をしています。フレンズ企画はスタッフで情報を持ち寄り、自由に演目を決めています。ここでは地元で活躍しているアーティストを、より多くの人に知ってもらえるよう心がけています。次にフレンズの原点でもある、